

# 第4学年国語科学習指導案

令和4年5月16日(月) 5校時  
世田谷区立松沢小学校  
第4学年4組

1 単元名 筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう。

教材名 「思いやりのデザイン／アップとルーズで伝える」(光村図書 4年)

## 2 単元の目標

○筆者の考えを捉え、全体と部分を選んだり、組み合わせたりする良さについて考えることができる。

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対比の役割について理解している。 ・考えとそれを支える理由や事例との関係について理解している。	・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や全体と部分との関係などについて、叙述を基に捉えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	・考えとそれを支える理由や事例との関係などを捉え、学習課題に沿って自分の考えを発表しようとしている。

## 4 単元について

### (1) これまでの学習経験

3年生では、「言葉であそぼう」「こまを楽しむ」の説明文で、「問い—答え」の関係を基に、「初め」「中」「終わり」のまとまりを捉えたり、大事な言葉や文に気を付けて段落ごとに内容を読み取ったりする学習をした。「すがたをかえる大豆」では、例の分類の仕方や書かれ方の順序を考える手がかりとして、接続する語句やキーワードを見付け、筆者の意図を読み取る学習をした。「ありの行列」では、実験とその結果を読み取り、事実と考察の違いに気付くことで、文章を整理して読み進める学習を行ってきた。

### (2) 本教材について

本単元は、練習教材「思いやりのデザイン」で習得した、筆者の考えを支える事例の見付け方や関係の整理の仕方を、本教材「アップとルーズで伝える」で活用していく。本教材はアップとルーズの違いがよく分かる写真が使われており、写真と段落の関連性を考えながら、対比的な説明がされた段落同士のつながりを読み取ることができる。同時に、情報の全体や焦点化した部分を選んだり組み合わせたりすることの効果が学べる教材である。本単元では、言語活動として、日常の中にある全体と部分を上手に用いた資料を活用し、その良さを見付ける活動を取り入れた。今後国語に留まらず、社会科や理科、総合的な学習の時間の発表など、多様な学習活動において情報の全体と部分を効果的に取り入れる力を生かしていきたい。

## 5 児童の実態

学習では、どの教科でも課題に対して意欲的に取り組む児童が多い。ペアや3・4人グループで話し合いをしたり、ロイロノートを活用して全員の意見や考えを共有したりする交流活動を日常的に行っているため、自分の考えを書いたり伝え合ったりする学習基盤は整っている。

本単元を通して、情報の全体と部分を選んだり使い分けたりすることの効果に気づき、自分の考えを相手に伝える際に意識して活用できるようにしていきたい。

## 6 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説より（P36～39）

「読むこと」の指導事項 内容の（1）は、学習過程に沿って、次のように構成している。

- 構造と内容の把握 叙述を基に、文章の構成や展開を捉えたり、内容を理解したりすること。
- 精査・解釈 文章の内容や形式に着目して読み、目的に応じて必要な情報を見付けることや、書かれていること、あるいは書かれていないことについて、具体的に想像することなど。
- 考えの形成 文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既有の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていくこと。
- 共有 文章を読んで形成してきた自分の考えを表現し、互いの考えを認め合ったり、比較して違いに気付いたりすることを通して、自分の考えを広げていくこと。

### 「C 読むこと（説明的な文章）」領域の構成 （1）指導事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
内容の把握	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	ア 相互段落の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
精査・解釈	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。
考えの形成	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
共有	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

■構造と系統【読むこと一説明的な文章】 光村図書 小学校国語 学習指導書

<p>筆者の考えを捉える</p> <p>【思いやりのデザイン/アップとルーズで伝える】</p>	<p>○考えを述べた文章では、文章の初めと終わりの両方で、考えを繰り返し述べていることが多い。</p> <p>○どのような具体例を挙げて考えを述べているかなど、段落どうしの関係を確認、筆者の考えを捉える。</p>
<p>＜生活の中で読もう＞</p> <p>パンフレットの読み方</p> <p>【パンフレットを読もう】</p>	<p>○パンフレットを読むときには、知りたいことに合わせて、どこを読めばいいかを考える。</p> <p>○パンフレットが作られた目的や、伝えたい相手を踏まえて読む。</p>
<p>要約する</p> <p>【世界にほこる和紙】</p>	<p>○まとまりごとに、中心となる語や文を確認する。</p> <p>○分量を考えて、元の文章の組み立てをいかしたり、自分の言葉を用いたりして、短くまとめる。</p>
<p>感じ方の違いに気付き、良さを見つける</p> <p>【ウナギのなぞを追って】</p>	<p>○読んだ文章に対する感想や考えには、その人が文章をどう受け止めたり、理解したりしたかが表れている。</p> <p>○自分とは違う感想や考えに出会ったら、違いはどこから来ているのか、他の人の感じ方の良さは何かを考えると、読んだ文章への理解が深まる。</p>

## 7 研究主題に迫るための手立て（ユニバーサルデザインを意識した指導の工夫）

### （１）授業の流れを示す掲示物（視覚化）

単元計画や、1 単位時間の授業の流れを提示することにより、児童が見通しをもって学習に取り組むことができると考えた。児童自身が、学習活動を理解し、主体的に学習できるようにした。

### （２）言語活動（焦点化）

本単元では、教材文を通して、全体と部分を有効に活用して説明する良さに気付けるようにした。マイタイムでは4つの資料から意図的に選ばれたアップやルーズの表現方法を取り上げ、その良さについて自分の考えをまとめる場面を設定した。シェアタイムでは自分の考えた事をグループに説明して伝える。交流の中で友達の発表を聞いて自分の考えを見つめ直し、加筆修正できるようにした。

### （３）習得活用を意識した学習計画（焦点化）

一次では、練習教材「思いやりのデザイン」を通して、筆者の考えとそれを支える事例との関係を読み取る。筆者の考えをより伝わるように表現する方法として、対比があることを知り、その表現方法の良さについて学ぶ。

二次では、本教材「アップとルーズで伝える」を通して、一次の学習を生かしながら、対比の関係にある文章を見付け、筆者の考えとそれを支える事例について、同時に、全体と部分を選んだり組み合わせたりする良さにも気付かせる。練習教材をはじめ既習の説明文の読みを生かしながら、自発的に取り組ませたい。

### （４）うさ松の秘伝書の活用（焦点化）

本単元では、つなぎ言葉、例、対比などについて学習する際、うさ松の秘伝書を積極的に活用させることで、秘伝書の使い方を身に付けられるようにした。また、学習したことをまとめた教室掲示物に、うさ松の秘伝書のページを表示して、学習の手がかりとした。

## (5) ICTの活用と個の学びが活かされる交流活動の工夫（共有化）

シェアタイムでグループ交流をする際に、自分の考えを整理したノートやワークシートをロイロノート・スクールで共有する。共有したものを基に話し合うことで、考えが伝わりそれぞれの視点が広がったり深まったりする助けとなるようにした。

対比で表現された文章から筆者の考えにつながる個所を見付け、まとめたものや、筆者に対する自分の考えを書いたものをロイロノート・スクールに提出して交流することで、自分が書いた文章を見直すことのできる力を養えるようにした。

## 8 学び方

言語形式 様々な説明的な文章に活用できる読み方	言語内容 該当教材における特有の読み方
① 形式段落に分ける。(No.16)	① 本教材：形式段落①～⑧に分かれる。
② 筆者の考えは、初めと終わりにあること。(No.1・No.4)	② <b>初め</b> 「何かを伝えるときには、アップとルーズを選んだり組み合わせたりすることが大切。 <b>終わり</b> 「送り手は伝えたいことに合わせて、アップとルーズを選んだり組み合わせたりする必要がある。
③ 筆者の考えを支える事例があること。	③ 中の部分に着目して読む。
④ つなぎ言葉に着目すること。(No.30)	④ 「しかし」、「でも」のように前の文や文章と反対のことをいうときに使う接続語を見付けることで、対比で表された例の特徴を見付ける。
⑤ 考え方を説明するために、対比して示された例に着目すること。(No.24・No.38)	⑤ アップで撮ると、細かい部分の様子がよく分かる。しかし、写されていない多くのことは分からない。 ルーズで撮ると、広い範囲の様子がよく分かる。でも、各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ちまでは分からない。
⑥ 文末表現から筆者の考えや対比で表された例を見付けること。(No.33)	⑥ 「～なのだ。」「～です。」などの文末表現を見付けることで、筆者の考えを捉える。また、「分かります。」「分かりません。」などの語尾に注目することで事例の長所と短所を見分ける。
⑦ 資料と写真を結び付けて読むこと。	⑦ 資料、写真と本文を結び付けて読む。
⑧ 全体と部分を意識して読むこと。	⑧ 全体＝ルーズ 部分＝アップ 二つを選んだり組み合わせたりすることで、分かりやすく伝わること。
⑨ ロイロノート・スクールで交流し、加筆修正する。	⑨ 友達の良い意見を取り入れ、自分の考えを広げる。 友達の意見を付け加える際には青で書き加える。

## 9 価値付けの工夫

「教師からの評価による価値付け」「児童同士の交流による価値付け」

教師からの評価による価値付け	机間指導	段落の要点に着目した読み方ができている記述を見付け賞賛する。 うさ松の秘伝書を用いて事例の要点を探そうとしていることを賞賛する。 全体と部分の良さに着目して、自分の考えが書けている児童の気付きを見付け称賛する。
	全体共有	段落の要点に着目した読み方や対比を用いた考え方ができている児童の記述や発言を取り上げて賞賛する。 友達の考えを聞き、考えが深まったり修正したりしている記述（青色での加筆）や発言を取り上げて賞賛する。
	評価	児童の書いた記述や発言から、学習のねらい（付けたい力）に応じた評価を心掛ける。

児童同士の交流による価値付け	記述を見せ、考えを伝え合う	事例の長所・短所などの根拠に基づく考えや対比などの表現方法を用いて自分の考えを伝え合う。
	評価	分かりやすい読み方・考え方ができているかを相互評価・自己評価する。

## 10 学習計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	○指導内容	支援（◇）と評価（★）
一次 練習教材「思いやりのデザイン」	1	<p>○これまでの学習経験を思い出し、「物事をより分かりやすく伝えるために今回の学習をしよう。」という課題意識をもつ。</p> <p>○練習教材を読み、文章構成を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形式段落</li> <li>・構成（初め・中・終わり）</li> </ul> <p>○筆者の考えがどの段落に書かれているかを見付ける。</p> <p>○学習計画を立てる。</p>	<p>○学習の見通しをもつこと。</p> <p>○文章構成を捉えること。</p> <p>○筆者の考えは初めと終わりにあること。</p> <p>○学習計画を立てること。</p>	<p>◇「うさ松の秘伝書」を活用し、「初め・中・終わり」の役割を振り返られるようにする。</p> <p>◇学習計画表を用いてどのような学習が必要か考え、計画を立てられるようにする。</p>
	2	<p>○2つの事例を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインの特徴</li> <li>・それぞれの長所・短所</li> </ul> <p>○2つの事例の関係を考える。</p>	<p>○それぞれのデザインの長所や短所を読み取ること。</p>	<p>◇Aの案内図、Bの案内図の長所と短所に分けてサイドラインを引き、違いをまとめたうえで対比関係にあることを押さえられるようにする。</p> <p>★考えとそれを支える理由や事例との関係について理解することができる。</p>
	3	<p>○読み取ったことを基に、デザインの長所や短所をノートにまとめる。</p>	<p>○それぞれのデザインの長所と短所をまとめること。</p> <p>○2つの事例が対比関係にあることを理解すること。</p>	<p>◇自力でまとめるのが難しい児童は、うさ松の秘伝書③「対比」を活用し、まとめられるようにする。</p> <p>★対比の役割について理解することができる。</p>
二次 本教材「アップとルーズで伝える」	4	<p>○本教材を読み、文章構成を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形式段落</li> <li>・構成（初め・中・終わり）</li> </ul> <p>○筆者の考えがどの段落に書かれているかを捉える。</p>	<p>○文章構成を捉えること。</p> <p>○筆者の考えは初めと終わりにあること。</p>	<p>◇「うさ松の秘伝書」を活用し、文末表現などに着目しながら筆者の考えを読み取れるようにする。</p> <p>★段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由について、叙述を基に捉えることができる。</p>
	5	<p>○4～5段落を通読し、2つの事例を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アップとルーズの特徴</li> <li>・それぞれの長所と短所</li> </ul>	<p>○アップとルーズの長所や短所を読み取ること。</p>	<p>◇アップとルーズの長所と短所に分けてサイドラインを引き、違いをまとめたうえで対比関係を押さえられるようにする。</p>

		<p>○読み取ったことを基に、アップとルーズの特徴をノートに整理してまとめる。</p> <p>○2つの事例の関係を考える。</p>	<p>○アップとルーズの長所・短所をまとめること。</p> <p>○アップとルーズの特徴が対比関係にあることを理解すること。</p>	<p>うにする。</p> <p>◇自力でまとめるのが難しい児童は、うさ松の秘伝書③「対比」を活用し、まとめられるようにする。</p> <p>★考えとそれを支える理由や事例との関係などを捉え、自分の考えを発表することができる。</p>
	6	<p>○6～8段落を通読し、筆者の考えを支える事例を見付ける。</p> <p>○教材文の中に、全体と部分の要素があることを知る。</p>	<p>○目的に応じて使い分けている事例を読み取ること。</p> <p>○始めと終わりに、全体を表す要素があることに気付くこと。</p> <p>○中に、部分を表す要素があることに気付くこと。</p>	<p>◇交流活動を通して、筆者の主張を支える事例を読み取れるようにする。</p>
三次 学んだことを生かそう	7 (本時)	<p>○資料を読み取る。</p> <p>○選んだ資料の全体と部分について、考えたことを書く。</p> <p>○考えたものをグループや全体で交流し、学習を深める。</p>	<p>○全体と部分を意識して読むこと。</p> <p>○全体や部分が使われている意図を考えること。</p> <p>○友達が考えたものの良いところを見付けること。</p>	<p>◇自力で見付けるのが困難な児童に対し、これまでの学習で用いた教材や資料を振り返るよう指導する。</p> <p>★資料から全体と部分の使われ方を見付け、その良さについて考えることができる。</p>
	8	<p>○単元を振り返り、全体と部分について考えたことを自分の言葉で書く。</p>	<p>○思ったことを自分の言葉で書くこと。</p>	<p>★文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。</p>

## 11 本時の指導 (7/8時)

(1) 目標 資料から、全体と部分の使い方や良さを見付けることができる。

(2) 展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援 (全) …全体 (個) …個別 ★評価
1 前時までの学習を振り返り、本時の課題をつかむ。	○学習を振り返り、めあてを確認すること。	◇練習教材、本教材の掲示物を基に、これまでの学習を振り返るようにする。(全)
身の回りの資料から、全体と部分の使い方や良さを見付けよう。		
2 資料を読み取る。	○全体と部分を意識して資料を読むこと。	
3 選んだ資料の全体と部分について、考えたことを書く。 マイタイム	○全体と部分が使われている箇所を探し出し、その意図を読み取ること。 ■全体と部分が使われている箇所を探し出すことができない。  ■どのようにまとめれば良いかが分からない。	◇資料の中から全体と部分の要素を見付け、その効果について考えを書いていることを価値付ける。(個) ◇ヒントカードを個別に渡し、全体と部分が書かれている箇所を探し出せるようにする。(個)
4 グループで交流する。 自分の考えを見直し、加筆修正する。 シェアタイム プラスタイム	○グループで交流すること。	◇交流を通して深まった考えや友達の見解で良いと思ったものを、適宜青鉛筆で加筆させる。(全)
5 全体で交流する。 自分の考えを見直し、加筆修正する。 フォローアップタイム プラスタイム	○全体で交流すること。	◇資料の中から全体と部分の要素を見付け、その効果について考えを書いていることを価値付ける。(全) ◇交流を通して深まった考えや友達の見解で良いと思ったものを、適宜青鉛筆で加筆させる。(全) ◇友達からの学びを自分のワークシートに加筆修正していることを価値付ける。(全) ★資料から全体と部分の使われ方を見付け、その良さについて考えることができる。
6 本時の振り返りをして、次時の学習内容を確認する。	○本時を振り返り、次時の学習内容を確認すること。	



## 12 板書計画

〈ホワイトボード①〉

<p>学習の進め方</p>	<p>身の回りの資料から、全体と部分の使い方や良さを見付けよう。</p>	<p>◎全体と部分の使い方・良さ</p>	<p>筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう アップとルーズで伝える</p>	<p>中谷 日出</p>
---------------	--------------------------------------	----------------------	---	--------------

〈ホワイトボード②〉

<p>「アップとルーズで伝える」 本文シート</p>	<p>「思いやりのデザイン」 本文シート</p>
--------------------------------	------------------------------